

専大校友を訪ねて NPO法人「green bird」代表・渋谷区議 長谷部 健さん
(平8商)



渋谷の街のプロデューサーに

「keep clean,keep green—きれいな街は人の心もきれいにする」をコンセプトにキャラクター入りの缶バッジやポストカードを配って「街を汚すのはカッコ悪いぜ！」と情報発信するNPO法人「green bird」を今年1月に設立。4月からは渋谷区議としても活躍中だ。

原宿生まれ。佼成学園高校から商学部会計学科に。前田和實ゼミで「楽しく」学んだ。オーストラリアンフットボール愛好会の副代表を務め、日本代表として国際試合にも多数出場。「オージーボールを通じての人との出会い、国際交流が私の原点です」

96年博報堂に入社。「若い感性が求められる業界なので新人でも責任ある仕事をさせてもらえました。ローソンやJTのCM制作に携わっていました」。

充実した日々だったが、いずれは営業の現場を離れなければならないと考えていた頃、幼なじみとの雑談から区議立候補の話が持ち上がった。生まれ育った街・住んでいる街をさらに居心地のいい場所にして次世代に引き継ぎたいと退職。選挙運動は街宣カーでむやみに名前を連呼するのをやめ、自分の声でこんな街にしたいとしゃべった。「良かったら応援してください」という独自のスタイルが反響を呼びトップ当選を果たした。「みんながあとちょっと社会に関心を持ったら、もう少しいい世の中になるんじゃないかと思っています。気軽に世の中に関心を持てるスイッチをプロデュースしてみたい。もちろん、ひとりが叫んだところで世の中が変わるなんてナメたことは思っていない。でも、同じ考えの人が増えていってくれば」と抱負を語る。

NPOの活動では区内の小学校の総合学習の時間の清掃活動や講演などを通じて子どもたちに環境問題を考えてもらっている。ナイキ、サントリーなど協賛企業も増え、行政に頼らないNPOとしても話題となり、活動の輪は博報堂時代の赴任地、福岡にも。

連載を持っているエコマガジン「ソトコト」9月号には「あにい」と慕う旧知の平尾誠二元ラグビー日本代表監督との“熱く”語り合っている。

二つの仕事をリンクさせ、広告業界で培ったプロデューサー的感性で渋谷の新たな魅力を引き出してくれるに違いない。(http://www.hasebeken.net)

【ニュース専修9月号9面】